

賑わいの創出にむけて

小清水町防災拠点型複合庁舎
建設検討準備作業チーム

もくじ

1. 「賑わい」検討の必要性（基本構想等での取り扱い）
2. 「賑わい」の定義
3. 行政課題の整理
4. 賑わい創出するツールの検証・まとめ
5. 賑わい創出のコンセプト・ツールの提案

賑わい検討の必要性

- ・ **基本構想における「防災拠点型複合庁舎に求める役割」（抜粋）**

『コミュニティの再生』

人が集い、人と人が交流し合う場の提供が重要であり、人が集うことで生まれる「賑わい」が将来に亘って活力ある町の維持に向けてのキーワードとなる。

- ・ **基本構想における「防災拠点型複合庁舎の基本機能」**

- ①防災拠点の形成
- ②コミュニティの再生
- ③親しみを持って、気軽に訪れる空間
- ④複合型による建設コスト等の削減

「賑わい」のある防災拠点型複合庁舎建設に向けて取り組んでいく

「賑わい創出」の定義

人が集まるだけでは賑わいではない。

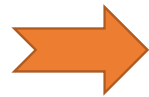
人が集まる場所にコミュニケーションが生まれることを「賑わい創出」の定義とする



行政課題の整理①

【住民向け課題】

- 健康寿命の延伸
- 地域コミュニティの再生
- 交通対策
- 子どもの遊び場が少ない
- 高齢者が利用できる施設、サービスの充実



課題に対する解決策

- 体力増進プログラムの展開
- 賑わい空間の創出、イベントの開催
- 乗り合いタクシー等検討
- 遊び空間の創出
- サロンや集まれる空間づくり、運動教室などの開催

行政課題の整理②

【町外・将来の住民向け課題】

- ・ 交流人口が増えているのに市街地まで人が流れてこない
 昨年の浜小清水駅周辺利用者おおよそ25万人。
 1%の利用でも2千人の利用が期待できる。
 ⇒交流人口を増やし、“住んでみたいまちづくり”の実現へ
- ・ 市街地へ人が流れてくるには何が必要か
 - 親子で遊べる場所
 - 日常生活に関わること
 - ここでしか食べられない・体験できないこと
 - 近隣の市町にないもの

賑わいを創出するツールの検証①

コインランドリー

- 生活の基盤である「衣」を取扱うため人が集まるツールとしては最適
- 賑わい創出の定義には不完全
- 近年の需要の高まりで町内外の利用が見込める
- 宅配サービスなどの運用ができれば高齢者の生活向上を図れる



フィットネス

- 近隣市町には充実したプログラムがあるとは言えない
- 健康増進に向けたプログラムを実施可能
- 会員同士でコミュニティを形成できる場となる



賑わいを創出するツールの検証②

オープンスペース

- 何かを目的で集まった人たちが集う場としては最適
(単体では人が集まらない)
- 役場感がでない空間にできる
- 待合スペースの活用や高齢者のサロンスペース、
パブリックビューイングやイベントの実施など用途の幅が広がる



カフェ・レストランなど飲食店

- コミュニケーションの場には飲食物の提供はプラスに作用する
- ここでしか食べられないご当地グルメの開発意欲につながる
- 人が集まる場所であれば利用が増える



賑わいを創出するツールの検証 まとめ

賑わいの定義より

賑わいの創出には、「単に人が集まる場ではなく、コミュニケーションが生まれる場となること」が必要

人が集まる場とは

- ・「ここでしかできない」ことを取り入れた空間
- ・生活基盤「衣・食・住」の質を高められる何かを取り入れた空間

コミュニケーションが生まれる場とは

- ・人が集まる何かをつくり、その他の付加機能で滞在を伸ばすことができる。コミュニケーションを生むための空間づくりができる。

